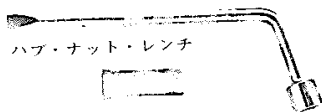


セルフ・サービスのしかた

CORONA **MARK II 1700** HARDTOP / **1900** HARDTOP



ジャッキと工具



ハブ・ナット・レンチ

プラグ・レンチ



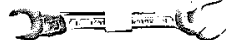
ドライバー ⊕ ⊖



ドライバー ⊖



モンキー・レンチ



組スパナ



プライヤー



タイヤ・プレッシャー・ゲージ

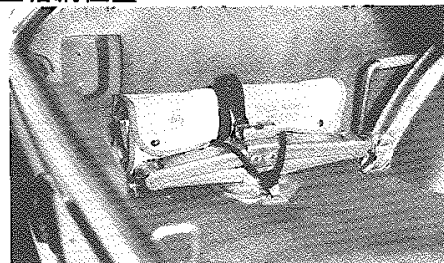


輪止め



ジャッキ・ハンドル

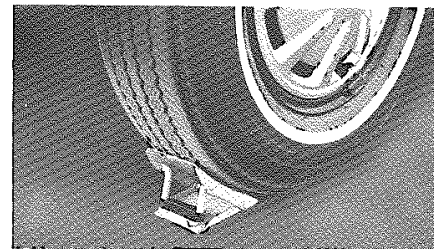
格納位置



工具とジャッキはトランク・ルーム内に格納されています。

パンクの処置

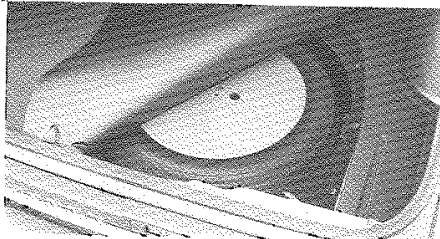
1=準備



まず、同乗者や重い荷物等をおろします。次にジャッキ・ハンドルおよび工具を取出し、しっかりと輪止めをしてください。

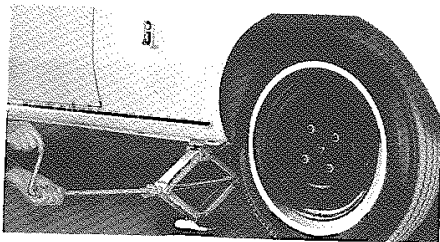
無断複製禁止

2 = スペア・タイヤ

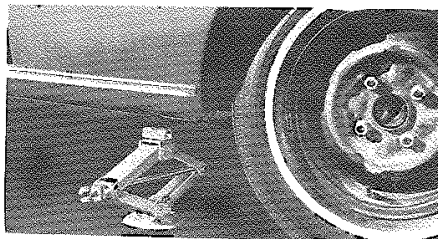


ジャッキがはずれた場合の危険防止のため、スペア・タイヤをパンクした車輪のボデー下においてください。

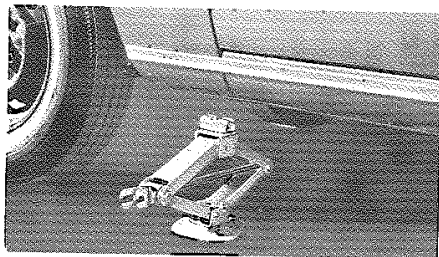
3 = ジャッキのセット



交換する車輪に近いサイド・レールに、ジャッキの受けをはめます。



フロント側……フロント・フェンダー取付けボルト横のサイド・レールにかけます。

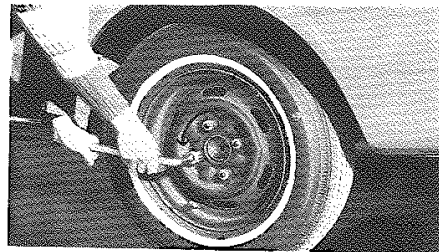


リア側……サイド・レールの切りかき部にジャッキをかけます。

4 = ホイール・キャップの取り外し

ドライバーまたは、ハブ・ナット・レンチのものがった方で、はずします。

5 = ハブ・ナットをゆるめる



ハブ・ナット・レンチで4個とも半回転位ゆるめます。(ナットをはずすと危険)

6 = ボデーをもちあげる

タイヤと地面が2cmくらいあくまで、静かにジャッキ・ハンドルをまわす。(ボデーの下に入るのは危険)

7 = 車輪をとりかえる

ナットをはずし、車輪を少しあげるようにしながらはずします。

スペア・タイヤをボデーの下から取り、その位置にはずした車輪をおきます。

〈ジャッキがはずれたときの危険防

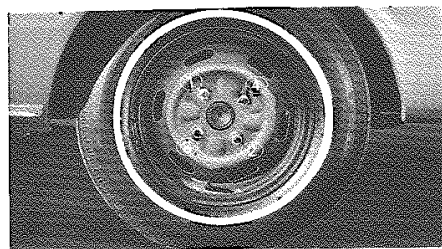
無断複製禁止

止)スベア・タイヤをはめ、ナットの平面の方を外側にして車輪にあたるまで締付けます。

ナットを落着かせるためにゆっくり車輪をまわしながら、ナットを締付けます。

8 = ボデーをおろす

9 = ナットを締付ける



10 = ホイール、キャップをはめる

11 = タイヤの空気圧を正規にする

12 = 車輪と工具をかたずける

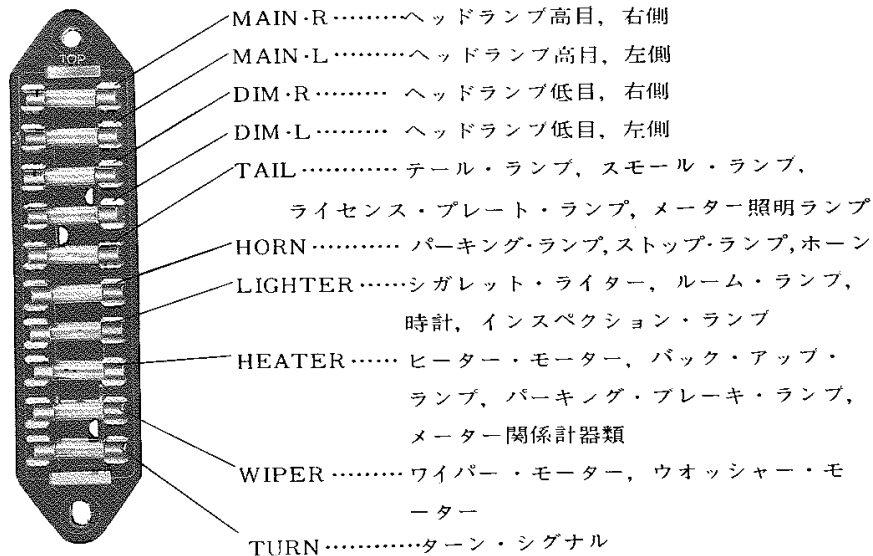
ヒューズ・ランプ類の交換

■ヒューズ

各ヒューズの受持っている電気関係の部分は写真のようになっています。

ヒューズ切れを確認するときには、その

ヒューズを受持っている電気関係の部分が全部作動するかを見て、全部作動しない場合にはヒューズ切れ、その中の1つだけが作動しないときはヒューズ切れではありません。



断線したヒューズを発見するための一覧表

不具合箇所 (点灯作動せず) ヒューズ	ヘッドランプ上向	ヘッドランプ上向	ヘッドランプ下向	ヘッドランプ下向	フロントの車幅灯	テールランプ	ライセンス プレートランプ	コンビネーション メータ照明ランプ	ホーン	ストップランプ	コンビネーション メータ内のゲージ	パーキング ブレーキランプ	エンジン チャイム オラ	ウグア エンジン 点灯	ヒータのプロワモーター	ワイパモーター	ウインドウオツシヤ	ターンシグナルランプ	ハザード ウオード ニングランプ	時計	シガレットライター	ルームランプ	バックアップランプ	パーキングランプ
	右	左	右	左	左右	左右	左右	左右	左右	左右	左右	左右	左右	左右	左右	左右	左右	左右	左右	左右	左右	左右	左右	左右
MAIN. R 10A	○																							
MAIN. L 10A		○																						
DIM. R 10A			○																					
DIM. L 10A				○																				
TAIL 10A					○	○	○	○																
HORN 20A									○	○														○
LIGHTER 20A																			○	○	○	○		
HEATER 20A											○	○	○	○	○								○	
WIPER 20A																○	○							
TURN 15A																		○						

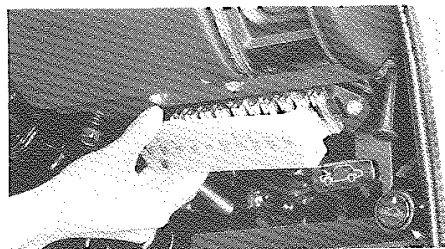
例……WIPER ヒューズを点検するとき

1. ワイパーもウォッシャーも作動しない……ヒューズ切れ。

2. ワイパーは良いがウォッシャーが作動しない……ヒューズは切れていな

い。

点検は例のようにして行なってください
万一、この方法でだめなときは他に故障
がありますからこのときはサービス工場
に連絡してください。



カバーは両端をもってはずします。
ヒューズは、スペア・ヒューズの中から
規定のものを選んでつけます。
もし規定のヒューズの持ち合わせがない
ときは一時的に他のスペア・ヒューズを
使用し、その後規定のヒューズととりか

えます。何度もヒューズが切れる場合は、
決して大容量のヒューズを使用しないで、
サービス工場に連絡してください。

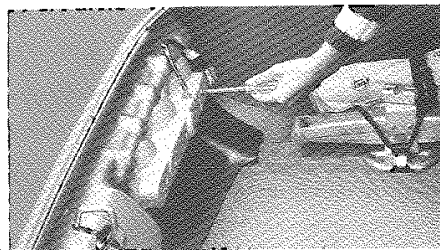
■ランプ類の交換

ストップ・ランプ……

ブレーキ・ペダルを踏んで、ランプが両
方ともつかないときはホーンを鳴らして
みます。ホーンが鳴らないときはヒュー
ズを調べます。

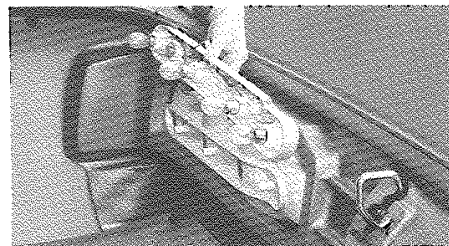
ホーンが鳴るとき、またはストップ・ラ
ンプがつきっぱなしのときは、サービス
工場に連絡してください。

片方つかないときは、電球を取りかえて
ください。



トランク・リッドを開けて、ランプ裏側
のバルブ・ソケット・カバーのセット・

ナットをはずし、カバーをはずします。



電球を少し押さえながら左にまわしては
ずします。

電球は12V—23W/8のダブル・フライ
メントです。

23W………ストップ・ランプ

ターン・シグナシ・ランプ

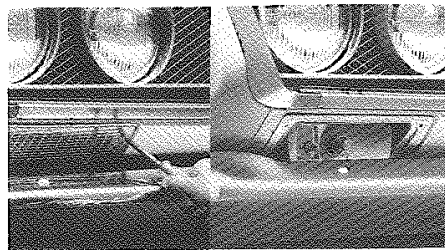
8W………テール・ランプ

ターン・シグナル・ランプ

エンジン・スイッチをONにして調べま
す。左右どちらか一方の、ターン・シグ
ナル・インジケーター・ランプがつき
っぱなしか極端に点滅回数が少いときは、
前後どちらかの電球が接触不良か切れて
います。

リヤが切れている場合にはストップ・ラ

ランプの交換と同様に行なってください。



フロントの場合は④ドライバーでビスをはずしてレンズをはずします。

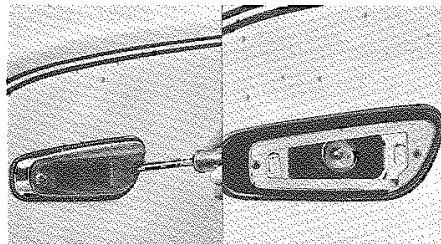
電球は少し押しえながら左にまわしては
ずします。

電球は12V—23/8Wのダブル・フィラ
メントです。

23W………ターン・シグナル・ランプ

8W………スモール・ランプ

点滅がどちらか遅いときは遅い方のサ
イド・ターンシグナル・ランプが接触
不良か切れています。



④ドライバーでビスをはずし、レンズを
はずします。電球を少し押しえながら左
にまわしてははずします。

電球は12V—8Wです

バック・アップ・ランプ……

エンジン・スイッチONのとき両方も
つかないときは、チャージ・ウォーニン
グ・ランプおよびオイル・プレッシャー
・ウォーニング・ランプが点燈するか調
べます。点燈するときはサービス工場
で点検を受けてください。

片方つかないときは、ランプが接触不良



か切れています。

ソケットを左にまわしてははずします。

電球は12V—23Wです。

《注意》

トヨグライド車はエンジンをかけてRレ
ンジにして点灯を確認してください。

ヘッドランプ……

ヘッドランプは、左右、高目、低目が各
各別のヒューズになっていますので、万
一走行中、一つのヒューズが切れても反
対側のヘッドランプは消えませんが安
全です。

どれか一つつかない場合にはヒューズを
調べます。ヒューズに異常がないときは
サービス工場ではランプを取り換えてくだ
さい。

テール・ランプ、スモール・ランプ…

テール・ランプ、スモール・ランプ、ライセンス・プレート・ランプが全部つかないときはヒューズを調べます。

一つつかないときはランプが接触不良か切れています。

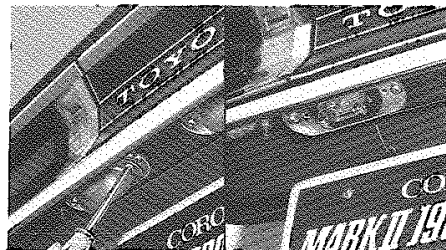
A テール・ランプ

ストップ・ランプと同様に行ないます。

B スモール・ランプ

フロント・ターン・シグナル・ランプと同様に行ないます。

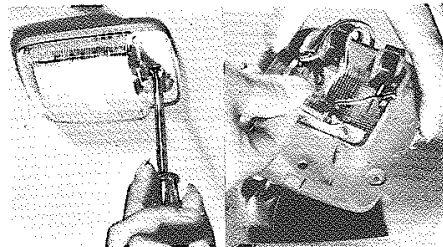
C ライセンス・プレート・ランプ



⊕ドライバーでビスをはずして、レンズをはずします。電球は少し押さえて左にまわしてははずします。

電球は 12V—8Wです。

ルーム・ランプ



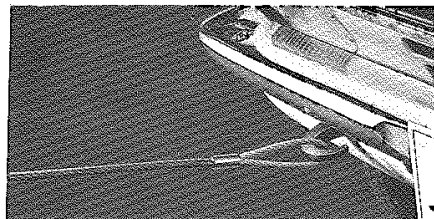
スイッチを OFF にしてランプ取付けビスをはずし、ランプをはずします。

電球は引っぱってははずします。

電球は 12V—10W です。

けん引の方法

■ けん引ロープをかける位置



フロントにロープをかけるときは、写真のようにけん引フックにかけてください。

《注意》

1. エンジン・キーを一回 ON にしステアリング・ロックを解除してから、ACC の位置にしてお車を移動してください。キーを抜いたままや、LOCK 位置のまま移動されるとステアリング・ホイールが固定され非常に危険です。
2. エンジンが回転していない場合、ブレーキ・ブースタ（ブレーキ倍力装置）は作動しません。したがってブレーキ・ペダルが重く、効きも悪くなりますのでご注意ください。（ブレーキ・ブースタ付車のみ）
3. けん引フック以外にはロープをかけないでください。
4. 車をけん引するときは、最長が 25 m を越えてはいけません。またロープが短かすぎると、けん引車に追突する恐れがありますので、ロープは 5 m 前後とし、ロープの中ほどには白旗をむすびます。けん引される車は常にロープがたるまないように気をつけます。

塗装の手入れ

CORONA **MARK II 1700** HARDTOP / **1900** HARDTOP

コロナの外観をいつまでも美しく保つために、塗装の手入れは非常に大切なものです。定期的な手入れをすることにより、塗装面の美しい光沢を維持することができますので、正しい塗装の手入れ法をよく理解してください。



■ 洗 車



洗車は適時つぎのように行ないます。

- ①水圧を上げ水をボデーの下まわりにふきつけ付着している泥を落します。特にフェンダー内側は入念に洗います。
- ②ボデーに十分水をかけながら、スポンジなどでよごれを洗い落します。水量が少ないとほこり、泥によるすり傷が付きまますのでご注意ください。しかしドアおよびクォーター・ウインドウ・ガラス回りを洗うときは水圧を上げ過ぎないでください。
- ③水洗いで落ちにくい汚れは、トヨタ・カー・シャンプー液または中性洗剤を使用するときれいに落ちます。

《注意》

洗剤を使用する場合、ボデーは必ず体温以下になってからにしてください。また洗剤が残らないようにしてください。

④タイヤに水をかけ、ブラシに石けんなどをつけて洗います。

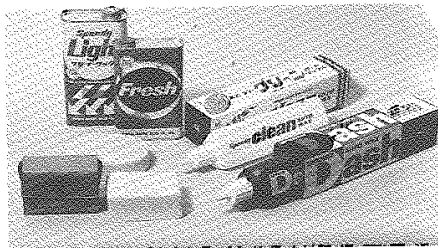
タイヤがきれいだと車も一段と美しさが引き立ちますので念入りに洗いましょう

⑤ボデーに残っている水分は、スポンジまたはセーム皮でよくふきとります。

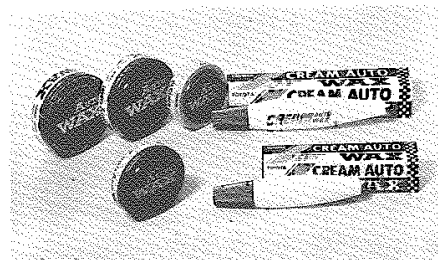
水滴が付いたままにしておきますと、塗装にはん点がついてしまうことがありますので注意してください。

■ワックスがけ

ワックスがけは、一カ月に一度、および水をはじかなくなったときに行なってください。塗装の表面にワックス分がなくなると、美しい光沢を失い、塗装の老化を早めます。このため定期的に良質のワックスを塗布して塗装の保護をしてください。塗装の保護には、トヨタ・オート・ワックスまたはトヨタ・スピーディ・ダッシュをおすすめします。



トヨタ・スピーディ・ダッシュの使い方は、少しづつ塗りながら仕上げてください。

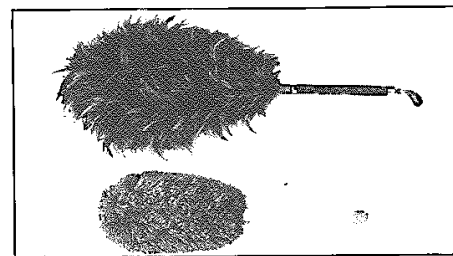


オート・ワックスの使い方は、ワックスを柔らかい布で、表面の光沢が少しにござる程度にまんべんなく塗布し、ワックスが乾いてから、別の柔らかい布でみがき

あげてください。

スピーディ・ダッシュは早く仕上げることができますが、オート・ワックスにくらべて、ワックス分が早くなくなります。ホコリがとれにくいときには帯電防止剤入りワックスをおすすめします。

おちにくい水垢、ピッチ、タールなどが



付着しているときは、オート・ワックスクリーナーをおすすめします。

《注意》

ボデーのほこりなどは、モップ、毛ばたきまたは柔らかい布ですり傷をつけないようにとり去ってください。塗装面の



よごれは水洗いし、水分はよくふきとってからワックスがけしてください。

体温以下にしてからワックスがけをしてください。

塗装面に異物が付いたままにしておくとう塗装面が化学変化しやすく、はん点、変色の原因になりますので、すみやかに塗装の手入れをしてください。

(a) ほこり、泥がついたとき

(雨あがり後または雪どけ道などを走行した場合)

洗車およびワックスがけを行なっ

さい。

(b) ばい煙、ピッチ、タール、虫または鳥のふんなどが付いたとき、

洗車およびワックスがけを行なっ

さい。

(c) 塩分が付いたとき、
(海岸地帯などで海水が付いたとき、また道路凍結防止剤などが散布してあるところを走行した場合)

洗車およびワックスがけを行なっ

さい。特に下まわりは人念に行なっ

ださい。《注意》
塩分による塗装の老化を防ぐため、塩分

■コンパウンドみがき

塗装の外観が極度に悪くなり、光沢、色調が回復し難い場合は、粒子の細かい、コンパウンドを選んで表面を軽くみがきます。この場合、局部的にみがくことはさけてある程度の広さを同一方向にみがいてください。

コンパウンドでみがいたあとは、十分水洗いをし、ワックスにより美しい光沢をとりもどしてください。

《注意》

コンパウンドみがきをひんばんに行なったり、みがく方法を誤りますと下地が出てきますので、取扱店または塗装専門店に依頼されることをおすすめします。